

災害対策機能の拠点及び官民共創と新しい働き方を推進する庁舎

令和 8 年 1 月現在

プロジェクトの詳細

開 庁	: 令和8年4月1日
人 口	: 約1,260,000人
対象人員	: 約490人
延べ床面積	: 14,255.36 m ²
建物概要	: S造(地下1 階柱頭免震) +CLT 耐震壁 地上11階 +機械フロア/ 地下1 階
委託業務	: なし



執務スペース

見通しのきくオープンフロアのグリッドに合わせて、執務デスクや各種ABWスペースを配置。組織改正や用途変更時にも、柔軟に再配置が可能。



執務スペース 脇机を廃止し、固定席を設けないフリーアドレスが可能。ABWスペースも活用し、業務内容に合わせて働きたい場所を選択できる。



執務スペース(役職者席)

1人当たりW1200W1200の机上スペースとヘッドレスト・肘付チェアを整備。スツールを組み合わせることで、自席に居ながら簡易な打ち合わせが可能に。



オカムラHPでも
ご覧いただけます

愛媛県では、災害時の防災拠点としての業務継続性の確保、木材活用など環境に配慮した庁舎づくり、新しい働き方の推進を基本構想に掲げ、第二別館の新築整備を行いました。新庁舎は耐震性に優れた構造を採用するとともに、3階には防災オペレーションルームを設置し、災害対応の機能強化を図っています。また、1・2階には官民共創拠点「E:N BASE」を整備し、民間企業との連携による新たな価値創出を促進するなど、業種を超えた出会い、交流が生み出される仕組みを備えた施設として整備されています。

執務環境では、フリーアドレスの運用が可能な什器レイアウトを採用し、柔軟な働き方を後押ししています。執務スペースは、見通しの良いオープンフロアで、グリッド型レイアウトにより組織改正や業務内容の変化にも柔軟に対応可能な構成としています。また、キャスター付きデスクを採用することで、従来型のデスクよりも自由にレイアウトを変更できるようになっており、その時の状況に応じた配置への調整が容易になりました。さらに、モバイルロッカーや個人ロッカーを導入することで、席の自由度を高め

つつ、空間の効率化も図っています。加えて、執務空間内にはABW(Activity Based Working)スペースを分散配置し、集中作業や打ち合わせ、Web会議など多様な業務に対応できる環境を整えています。上下昇降テーブルやカジュアルなミーティングスペース、集中ブースも設け、業務内容に応じて働く場所を選択できることで、業務効率化と柔軟な働き方を支える先進的なオフィス環境を実現しています。

災害対策機能の拠点及び官民共創と新しい働き方を推進する庁舎



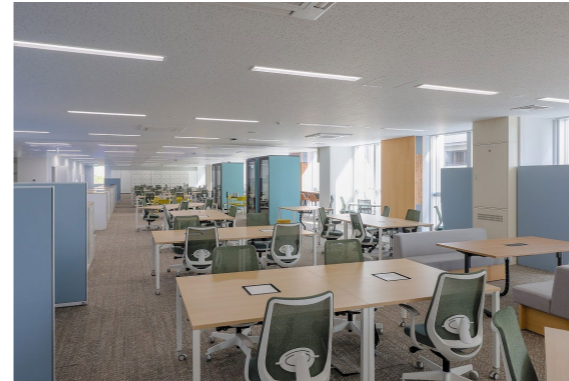
執務スペース(一般職席)

1人当たりW1200D600の机上スペースと肘付チェアを整備。テーブルの天板下にかばんフックを設け、下肢空間を確保。



執務スペース

テーブルをキャスター仕様にする事で、職員自身によるレイアウト変更が可能。将来変化にも柔軟に対応できる執務環境を整備。



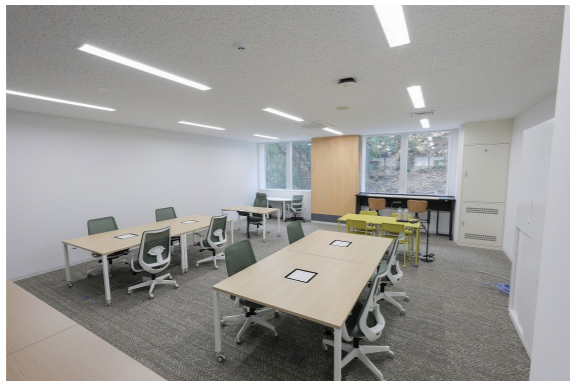
執務スペース

自然光を取り込む明るい空間の中に、集中作業とコミュニケーションのバランスを考慮したレイアウトを整備。



執務スペース

オープンフロア内に執務デスクや各種ABWスペースをバランス良く配置。グリッドレイアウトにより集中作業から打ち合わせ、WEBミーティングまで多様な働き方に柔軟に対応。



執務スペース

役職者席を単独で配置したレイアウト。窓際にはABWスペースを設け、自然光を取り入れながら打ち合わせやソロワークなど多様な働き方に対応。



個人ロッカー

移動棚を採用し、1列目には個人ロッカーを配置。限られたスペースを有効活用。



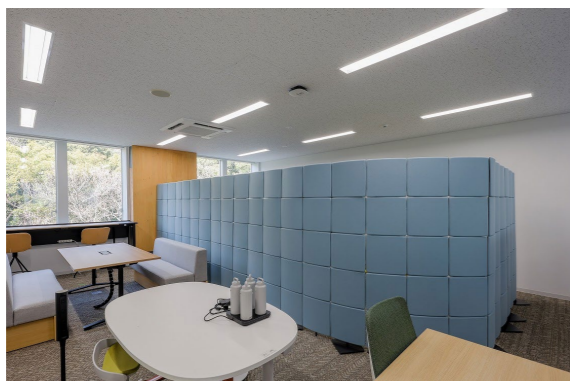
個人ロッカー

メールポスト付き、棚板は可動式で収納物に応じた柔軟な運用が可能。ダイヤル錠を採用し、鍵管理の負担を軽減。



ワークブース

1人用のフルクローズ型ワークブースは個人の集中作業やWebミーティングなどに活用。両面ガラスにより、圧迫感のない空間を構築。



スタンドパネル

サーキュラーエコノミーに対応したパネルを採用。工具不要で組替え可能な柔軟性と高い吸音性を備えており、セミクローズな環境を整備。